

平成23年度第1回「市民と市長のまちかどトーク」開催概要

- 1 日時 平成23年8月27日（土）午後2時30分～午後4時00分
- 2 場所 ロビンソン小田原店 4階ギャラリー
- 3 開催テーマ いのちを守る小田原～大震災を踏まえたまちづくり～
- 4 参加者
 - (1) 一般市民：90名
 - (2) 市側出席者：市長、加部副市長、大野副市長、時田企画部長、
本多市民部長、柳田防災部長、井澤環境部長、
広報広聴課（事務局）
- 5 意見交換の一覧（テーマに関する意見）
 - (1) 消防と救急車の要請について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (2) 防潮扉について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (3) 避難マニュアルについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (4) 広域避難場所について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (5) 東日本大震災復興支援イベントについて・・・・・・・・・・・・ 6
 - (6) 避難所である小学校などの公共施設について・・・・・・・・・・・・ 6

意見交換の概要

(1) 消防と救急車の要請について

- ・加藤市長にお礼を申し上げたい。小田原市の災害に関するお互いの助け合いということでサミットミーティングをされている。その結果は既に出ている。市長が二宮町の坂本町長にトップコンタクトをすることは非常に良いことである。ぜひ災害だけではなく続けてほしい。
- ・私が住んでいる地区の906人の住民のうち40パーセントは65歳以上、約50パーセント近くが75歳以上の後期高齢者であり、ますます高齢化は進むだろう。災害に関して、消防と救急車を要請すると10～15分かかる。消防と救急車を二宮に要請すると1～2分で到着する。高齢者の血管障害や脳卒中は1分1秒を争うので10分かかるのは問題である。人命第一に考えている小田原であるので、ぜひ検討してほしい。

加藤市長

- ・二宮町の坂本町長とは、去年からまちの課題について話し合った。小竹の方は小田原のまちなかより、二宮町との縁の方が深いかもしれない。課題については伺っている。
- ・救急活動については、県内の市町村の間で要請があった場合は支援するという、消防総合応援協定のようなものがある。これは、二宮町に限らず隣接、周辺自治体との協力関係を行っている。救急については、二宮から消防車が行き、二宮に搬送する体制にはなっていない。
- ・消防については報道などでご存知かと思われるが、2市8町は広域連携の取り組みを議論している。残念ながら、箱根町さんと湯河原町さんは今回参加はしていない。9月から、1市5町で消防も含めた広域行政を行っていくと議論が本格的に始まる。その中で、これまでの長年の広域連携の

枠組みではないということで二宮町は入っていない。まちとの境で、どういう運用ができるかということについて坂本町長との議論の場に出していきたい。今後の課題である。

(2) 防潮扉について

- ・防潮扉について3点伺う。1点目、海岸通りに明治38年に造った堤防がある。堤防の目の前に西湘バイパスがあり、その近くに通路に防潮扉がある。9メートルの津波が来たら心配である。市長に9メートルの津波が来ても大丈夫であると述べてほしい。2点目だが、東日本大震災発生後、15分で津波が襲ってきた。消防職員が防潮扉を閉めに行った際、津波の被害に遭い亡くなったということを知った。大きな津波が来たときは、誰が閉めてくれるのか。3点目だが、防潮扉を生コンクリートでふさいでほしい。

加藤市長

- ・防潮扉の安全性については、9メートルでなくても、5メートルの津波であっても襲ってこなければわからない。そのときの状況判断は難しい。津波到達予想に安心することなく、必ず逃げてほしい。相馬市では消防団が沿岸に出て、扉を閉めたり、避難誘導を行い、命を落とした。大きな痛手である。
- ・大きな津波がくるのは近いところでの震源である。襲ってくる時間は短い。残念ながら職員や消防職員が指示を出している時間はない。防潮扉が開いていても閉まっても、いち早く逃げてくださいことが最優先である。そのため避難経路作りをしている。
- ・海に繋がる通路をふさぐというご意見については、現在防災計画の見直しを行っている。地域の皆様のご意見を伺い、今後の課題である。
- ・まず津波が襲ってくる地震が発生した場合は、すぐに逃げてください。

(3) 避難マニュアルについて

- ・小田原市の小中学校の子どもが心配である。大川小学校では津波の避難の際に、先生方の意志がまとまらず、間違った認識で多くの子どもが流された。
- ・防災対策課に確認した際、市でマニュアルを学校ごとに確認をするのかを聞いた。各学校で決めているとの回答であったが、情報の共有化が必要である。
- ・海拔10メートル以下にある学校は小田原市に3校あるときいた、その屋上に避難のフェンスをつけることは素晴らしい。
- ・1次避難場所などの避難マニュアルなどで意志の共有化を行ってほしい。

加藤市長

- ・各地域、各学校の避難時マニュアルがある。津波がきたあと広域避難所としての内容を加味したマニュアルがある。

企画部長

- ・学校ごとのマニュアルは、すぐに協議し津波を想定したマニュアルに見直しを行い、全校作成済みである。またその見直しの結果は保護者に通知済みである。
- ・今回1回通知しただけではなく、今後徹底して周知し、避難訓練を普段から行っていく。

(4) 広域避難場所について

- ・私の自宅付近の広域避難所は大窪小学校しかない。山を越えなければ避難できない。広域避難場所は市が決めている。2,800世帯の住民が広域避難所である大窪小学校に避難することは狭くて無理である。大きな避難場所を確保してほしい。今後の計画も踏まえてお答えいただきたい。

加藤市長

- ・大窪地区は、非常に高い大窪小学校に行かないと広域の避難所がないということは承知している。
- ・沿岸を抱えた地域は、実際に歩いて行くことができる高台があれば、広域避難所として運営できるよう話し合いたい。避難場所をどれだけ確保できるかが重要である。5分以内に高台に辿り着けない住民に対して、どれだけ用意できるかの詰めの作業を行っている。

市民部長

- ・津波に関しては、避難区域として、3階以上の鉄筋コンクリートなどを対象にまち歩きをさせていただいている。大窪、早川、十字地区は海に面しているところではないが、津波の影響はでるであろう。
- ・高さがあるビルが32棟あるが、色々な状況を考え、交渉の対象としているビルは3棟であり、交渉の段階に移るところである。津波が襲ってきたら、まずは高台に逃げていただきたい。

発言者

- ・地球博物館は避難場所として交渉を行う予定はあるか。

加藤市長

- ・神奈川県知事と首長の意見交換会では、当然津波の話題になった。県内で13市町村が海に面している。県有の施設については、避難場所として開放したいと聞いている。避難所としての使用ができるかということに関しては、協議をする必要がある。

防災部長

- ・補足する。津波に対しての緊急一次避難所は、小学校などについて見直しを行う方針であるが、広域避難所は災害が発生後、火災が延焼してきた場合、

身を守ること、災害で住家を失った市民の避難場所として、広い場所で皆さんが生活する場所である。広域避難所を小学校に指定しているのは、多くの市民が長時間住むことができるということからである。

- ・地球博物館などを避難場所としたい旨を県の教育委員会や県立の高校などに交渉をしている。2,000～3,000人を収納できるスペースは限られている。今後も検討をしていく。

(5) 東日本大震災復興支援イベントについて

- ・9月11日に小田原市観光協会が主催の東日本大震災復興支援イベントを開催して下さることを御礼申し上げます。自分に何ができるかということから見つめなおすいい機会となるだろう。

(6) 避難所である小学校などの公共施設について

- ・確認をしたい。1つ目は、避難所である小学校などの公共施設は必ずセキュリティがかかっている。夜の小学校は戸締りをしている。いのちを守るため、小学校のガラスを割って高いところに逃げるということになったら、器物破損になるのか。2つ目は、昼間の小学校に多数が避難した場合、強度はいかがか。

加藤市長

- ・1つ目の非常事態の際、夜の公共施設への侵入、利用は器物破損となってしまうかについてはわかりかねる。しかし、地震が発生した際、すぐに施設管理者が向い、施設を開放する状態を作るのが望ましい。2つ目の質問だが、避難する小学校の床面積に対して、何人の方が入ることができるかということとはそれぞれの建築物ごとに床面積ごとの過重は把握している。しかし、そ

れ以上の方が避難していらっしゃったら、その場で現場の判断を行うしかない。

防災部長

- ・ 1 点目非常事態の際のことだが、なかなか避難場所に入れないといことがあるので、公共施設の鍵の問題について、防災部から教育委員会に話をし、教育委員会から各学校に相談をした。鍵を複数用意し、自治会にお渡しするという形で対応したい。